

〇 広報

たかのす

60・1・1

№ 543

発行日 毎月1日・16日

◆編集と発行 鷹巣町役場総務課広報係

☎62-1111

◆印刷所 株式会社 成文社

迎春



謹賀新年

新春にあたり、町民各位の健康とご活躍をご祈念申し上げ、併せて、平和、希望、躍進の輝かしい年であるようお祈りいたします。

今年は、町村合併三十周年にあたりますが、この間、町政に深いご理解とご協力を頂いております町民各位をはじめ、関係機関、団体に対して深甚の感謝を申し上げます。

ご承知のように、町内外を取りまく現実、大変に厳しいものがあります。この際、英知と和を結集し、町役職員一同普段の努力をはらい、これに対処し、明るく豊かで逞しい郷土建設に邁進する所存であります。

本年も、より一層のご協力を賜わりますよう、お願い申し上げます。

昭和六十年元旦

鷹巣町長 出川 禮一



今年は丑年です。あなたは牛というどんなことを連想しますか。動きが鈍い、のんびり屋、ねばり強い、後に引かない……など、性格が特徴的なほか、厚いビフテキ、乳製品、牛肉の貿易自由化問題など、思いはさまざまでしょう。

もちろん、日本でも昭和二十年代までは、馬とともに耕作や堆肥づくり、運搬には欠かせないものでした。

現在では、耕運機やトラクター、トラックなどにその座をうばわれ、田畑や道路で、その雄猛な姿を見ることはなくなってしまう。

さて、ことしの丑年はモウ烈に突進するか、のんびり人生を友俦しながら生きるかはみなさんの考え方ですが、ともかく角つき合わせないよう仲よく生きたいものです。

牛が役牛として田畑を耕しているのを見たことのない世代は、乳牛がのんびり牧場で草を食んでいる風景がブラウン管に写し出されたり、童話の世界に出てくるようになりペット的なイメージを強くしています。

しかし、歴史をさかのぼってみると、牛はペットどころか、今から五千年くらい前か

62年には全線開通

全長2,201メートル、幅員7メートルに

道路が狭く、農用地利用が充分でなかった鷹巣中岱から坊沢間の農用地の活用と農村生活環境の改善を図るため、鷹巣地区農免農道を、今年度から着工。六十二年度の完成をめざして整備中であります。

中岱地区と坊沢を結ぶ農道は幅員が三メートルと狭く、緩子川の橋も老朽し、大型トラックなどの通行が困難なことから整備が望まれていましたが、五十八年度に農免農道整備事業（農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業）として採択。六十二年度の完成をめざして工事が進められています。

同農道は中岱から町道・坊沢（大向線（旧坊沢農免））に交差する二千二百一メートルで、五十八、五十九年度で用地買収をほぼ完了。五十九年度から工事に着手。このほど鷹巣側から千メートルの路盤



なお事業費は、五十八年度四千五百万円、五十九年度一億八千六百九十万円、六十年以降二億七千八百十万円、合計五億千万円となり十二分の十一が国の予算でまかなわれます。

工事が終わりました。このほか、国の追加予算により緩子川の橋六十メートルの架設工事が今年度事業として行われることになっております。

二ツ井方面も交通緩和

同農道は、全幅員七メートル、有効幅員五・五メートルになり、農耕車輛の通行や農産物の運搬がスムーズになるほか、農用地の高度利用が可能になり、農家の生活、経済など健全な農業経営に貢献することになります。

また、坊沢、七座、二ツ井方面から市街地に向う車輛の通行も可能になることから、鷹巣陸橋や町内の交通渋滞が緩和されることになり、早い完成が期待されています。



町長

出川 日誌

12月1日～15日

- 1日（土）町社会福祉協議会主催、町内十団体の後援により「共に生きる地域福祉の輪を広げよう」をテーマに、町福祉研修大会が開かれた。老人、婦人、身障更生の代表より提言。県里親会会長の講演。永年福祉の充実に貢献した団体、個人の表彰を行い、家庭や地域でお互いに助け合いたいという誓いを誓った。
- 3日（月）鷹巣阿仁広域市町村圏組合管理者会議。
- 7日（金）人権擁護週間の

- し出て、要請に応える体制が整った。
- 10日（月）鷹巣保健所運営協議会。県内の保健所ごとにそれぞれ異った事項の諮問を受け答申するための協議会。五十八年度は「献血事業の推進はいかにあるべきか」であり、今回は河川汚濁で問題がある「生活雑排水対策はいかにあるべきか」であった。
- 11日（火）秋田市で、さきがけ政経懇談会、郡町村会長会議、町村会総務委員会が、

行事として、街頭でチラシを配布して、困りごと相談の呼びかけを行った。

■8日（土）坊沢地区「町長と語る会」が地元公民館で開かれた。雨天時の集落内河川の排水対策が急務。県営排水対策特別土地改良事業の早期完成が望まれる。

■9日（日）北秋盲人会とガイドヘルパーの合同研修会が開かれた。盲人ガイドヘルパーの派遣事業は全県でもめずらしいとか。当町では婦人ボランティアの三人が協力を申

■14日（金）町産業祭の反省会が産業会館で開かれた。明年は五回目の開催となるので内外ともに充実しなければならぬ。また単なる町内の催しものにとどまらず、町外を取り引き者も参加させたい。



米の出荷量は二四二、三二二一俵

〔農林課関係〕：十月十五日現在の稲作状況指数は、全国、秋田県が「百八」、県北「百十三」となり、十〇〇当り収量も全国五百五十五モ（昨年四百五十九モ）、秋田県六百十三モ（昨年五百七十四モ）、県北六百三十モ（昨年五百四十八モ）と近年まれにみる豊作でした。十二月一日現在、鷹巣町総出荷数量は、二十四万二千三百二十二俵（六十モ）（政府買入限度数量十九万二千九百八十三俵、超過米四万五千五百二十五俵、他用途利用米三千八百十四俵）で、前年度に比し、三万二千四百三十四俵の増、一等米比率も八一・二三％（前年六九・三％）でした。

転作については、最終実績は目標四百四十七モに対し四百六十九・四モとなり、達成率は一〇五％となりました。

ふるさと会を発足させ、首都圏に在住する鷹巣町出身者を中心に入会を奨めたところ百九十三人の加入が

十二月定例町議会は、十二月十七日から二十五日まで九日間の会期で開催されました。議会は初日に町長の行政報告と、提出議案の大綱質議が行われたあと各常任委員会に付託。十八、十九日は一般質問、二十日から各常任委員会。最終日に本会議を開いて閉会しました。十二月定例会の行政報告は次のとおりです。

ありました。十一月第一回ふるさと宅配便（農産物セツト）を発送しました。

小ケ田生活改善センターが完成

山村振興事業で、建設中の小ケ田生活改善センター（建物面積百七十・〇六平方メートル、総事業費千六百二十九万三千円）が完成し、今後関係住民のコミュニティセンターとして活用されることを期待しております。

県営ですすめられている鷹巣地区農免農道工事は、当初配分八千百万円、その後早期完工めざし強力な陳情が功を奏し、一億五千九百万円の追加配分があり、綴子川架橋六十メートル建設にも着手することが出来ました。秋田北部農業開発について、農政局から委託された土地開発既定二十一団地千四百五十三モの土地所有状況調査が終わわり、今後これらの団地内開発可能地を調査することになっております。

五十九年農業災害復旧事業未発注分十三件は、予算の追加配分があり、年度内に災害復旧の全工事が完了の見込み。

五十二年度から開設工事がすすめられていた、広域基幹林道大摩当線（外川原、四渡間一万七千九百九十モ、金額八億七千三十四万五千円）が完成し、十月二十九日竣工式を行ない、供用を開始しています。かねて、入会林野事業では明利又地区（面積六百六十二・二五七平方メートル、権利者三十四人）田沢地区（面積三十七・六九二平方メートル、権利者十七人）関係者に十一月にそれぞれ登記済証を交付することができました。

太田・川口線は現在調査中

〔建設課関係〕：五十九年四月より十一月末日までに発注済みの各種工事は、百二十件三億六千六百一十七千円、予算比七五％発注率となっております。また本年度予定されている箇所については、設計出来次第発注の予定です。

直営施行による舗装工事は、綴子家の下線外七路線千三百四十八モを、更に鷹巣小学校給食棟前四百三十二平方メートルの舗装を完了しています。

都市計画街路事業太田、川口線については、調査測量を九月十八日発注し、建物所有者十三人のうち、九人の所有する建物十七棟について現在調査中。

除雪については例年同様、幹線道路、生活路線を主体に百七十三モの除雪を計画しております。

竜森地区で歯科診療を

〔保険衛生課関係〕：健康教育の一環として、本年度十二回目を迎えた健康大講座は、六月から十一月まで、綴子基幹集落センター等で開設、受講者は延べ七百六十八人で住民自身による健康意識の高揚と定着に努めました。

歯科診療に恵まれない竜森地区を対象に、県及び県歯科医師会の協力で、竜森小学校で三回実施、一般十四人、学童七十一人、計八十五人の受診者。

献血推進事業は、秋田県において本年度で二十年目を迎えながらも慢性的な血液不足の現状にあり、十一

月末現在八百十二本で七五・二％の実績であります。

十月一日から実施された退職者医療制度の対象者は十一月現在で退職者本人四百四十人と、この扶養者家族二百三十三人、計六百七十三人であり退職被保険者割合は六・四六％であります。

使用済乾電池等の水銀汚染対策として、有害物回収箱百五十個を各町内会館、並びに町の施設等に設置し、また各家庭にはポリ回収袋を配布しました。

湯の岱温泉利用 は一日一三九人

（商工課関係）：第四回鷹巣町産業祭は、期間中一万五千人の参観者で賑わいました。

湯の岱温泉の利用状況は、四月から十一月末現在の操業日数は二百二十九日で入浴者三万一千九百五十八人となり、一日平均百三十九・五人に当たっております。これは、（昨年同期八〇％増）

出稼者互助会の加入状況は、十一月末現在で三百六十一名となっており、出稼先別では関東六〇・一％、中京二四・二％、近畿一一％の順となっております。

中小企業振興資金制度（マル鷹融資）の利用状況は、四月から十一月末現在で五十九件一億四千六百八十八万円、利用残高は百七十七件二億八千四百九十四万円。その他、本町出身の直木賞作家、渡辺喜恵子さんの小説「みちのく子供風土記」が、映画化されることになり、十月から十一月初旬にかけてわが町を中心にロケーションが行なわれました。

防火水槽や 消火栓を新設

（町民課関係）：老人福祉週間にちなんで、毎年開催しております敬老会は、七地区一施設の七十才以上

二千百人（前年より九十二人増）を対象に、九月八日より三日間にわたり八会場で行ないました。

三年一度開催している、戦没者の合同追悼式を九月二十五日行ない二百人の遺族が参加。

福祉関係の施設については、防火水槽の新設を二カ所（品類、上舟木）、消火栓三カ所（大畑、花園町、

糠沢）、消防器具置場三カ所（脇神、太田、向黒沢）、望楼一基（太田）の工事発注竣工しました。

秋の防火週間に於いて、消防団員の資質向上を目的として十一月四日早朝に全団員による一斉放水訓練（中央公園）と、技術習得のため講習会を開催しました。交通安全関係では、カーブミラーの設置（八カ所）を進めました。しかし、本町の交通事故は、件数で二

件（前年同期五十九、本年五十七）の減ですが、死亡事故で三倍（前年一人、本年三人）の増であり、関係機関とともに交通指導隊員も含め、巡回を強化して、事故防止に努めます。

南中用地は地 権者と交渉中

（管財課関係）：南中学校用地は、公有地を除き地権者二十八人の細部測量も終え、面積四十五・五三九

平方メートルの用地買収と田子ヶ沢、松原間の道路改良用地地権者十四人面積三・二七四平方メートルの買収は、目下交渉中。

地籍調査は、昭和五十七・五十八年度二カ年継続に実施した七日市越鳥沢外二十五字、面積十・四六平方メートルは国土庁より認証があり、現在登記作業中です。また五十九年事業は、一筆地調査が完了し、測量も九五％の進捗状態であります。

明年度の 新生児から編入

（教育委員会関係）：南中は六十一年八月開校にむけて進めております。

教育的観点からして中央小の現在の六年生から編入すべきものと決定し、再三、懇談会を開き話し合いをしたが、この結果十二月三日に至り、中央小PTAと合意に達することができた。

また、第十六回鷹巣町文化祭は、十一月二日から四日まで中央公民館と鷹巣小学校を会場に開催され、連日の人出でにぎわいました。

（水道課関係）：上水道事業の給水状況は、脇神地区を除いて十一月末現在では二千九百四件で計面件数二千八百八十五件に対し一〇・六％の加入率。年次

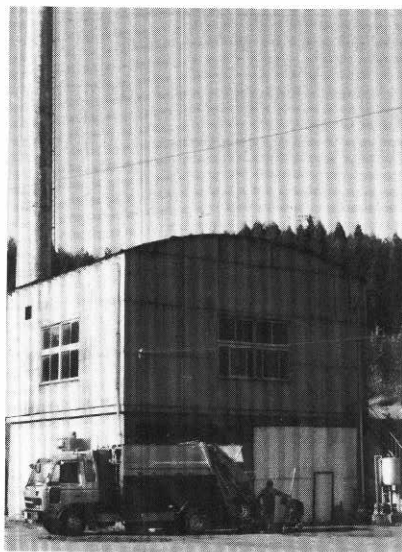
計画で実施している量水器の更新作業は、十二月中旬に完了の予定。脇神地区までの拡張事業は、配水管及び各戸給水工事が完了し、給水を開始しております。

鷹角線の第三 セクター発足

（鷹角線関係）：秋田県内陸縦貫鉄道株式会社創立総会が、十月二十九日に開かれ、議案の承認を得、第一回取締役会において、代表取締役、本店設置場所等の決定がなされ、現在、地方鉄道業免許申請、未開通区間の工事施行認可申請など手続の作業を進めております。

また全県市町村長会議において、知事から鷹角線第三セクター経営基金について、市町村の資金協力を要請され、県町村会の対応も「原則的には、協力はやむを得ない」との前提としながらも、総額及び配分率については、問題が多くなお相当な時間を要するものと思われされます。

（鷹巣阿仁広域市町村圏組合事業）：広域市町村圏組合で進めている、広域ごみ処理施設については、数年前から検討課題として取り組んできたが、各処理施設も補修より維持してきたものの、処理能力の低下目立ち、この更新についての施設規模、処理方法、設置場所について協議中ですが、大凡昭和六十二年度あたりで着工が予想されます。

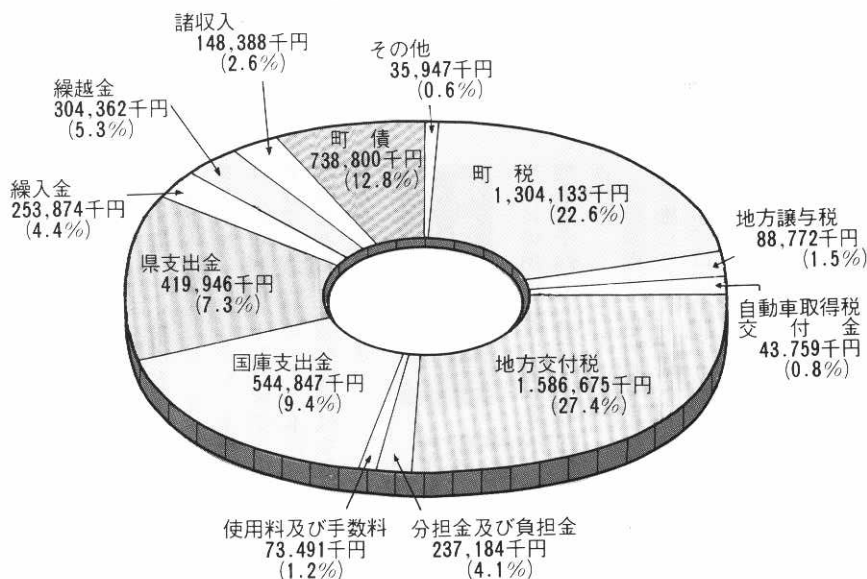


昭和58年度決算報告

収支は各会計とも健全

一般会計 2億3307万6千円繰越し

一般会計歳入 57億8017万8千円



昭和五十八年度一般会計及び特別会計の決算は、9月定例町議会で決算特別委員会に付託。同委員会では慎重審議を重ねていましたが、いずれの会計も原案どおり認定となりました。一般会計や各種特別会計は、みなさんから納付いただいた町税や地方交付税、国、県の支出金でまかなわれていますが、いずれも黒字でムダのないよう効率的に執行されています。会計のあらましは次のとおりです。

＝昭和58年度 町税徴収状況及び負担状況＝

＝負担状況＝

＝徴収状況＝

(単位：千円)



1人当たり

町民税 22,993円

固定資産税 22,126円



1世帯当たり

町民税 79,423円

固定資産税 76,426円

たばこ消費税

1人当たり

3,721円



人口 25,098人
世帯 7,266 世帯
(昭和59年3月31日現在)

区分	予算額	調定額	収入済額	収入率
町民税	542,039	590,965	577,085	97.65%
固定資産税	546,201	588,898	555,310	94.30%
軽自動車税	12,573	13,418	13,200	98.38%
町たばこ消費税	92,056	93,380	93,380	100%
電気税	56,915	61,268	61,268	100%
鉱産税	1	0	0	—
木材引取税	3,601	3,890	3,890	100%
特別土地保有税	1	0	0	—
計	1,253,387	1,351,819	1,304,133	96.47%

町費の使いみちは

一般会計歳出 55億4710万2千円

1人当たり 22万1018円

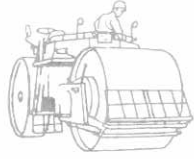
1世帯当たり 76万3433円

災害復旧費 9705万4千円
(3,867円)



河川、道路、農業施設の災害復旧

土木費 8億2251万1千円
(32,772円)



道路の新設改良、補修など

労働費 4505万6千円
(1,795円)



出稼ぎ対策など

議会費 9118万2千円
(3,633円)



議会活動費など

総務費 7億1164万8千円
(28,355円)



戸籍住民基本台帳、財産管理費など

公債費 4億3995万6千円
(17,529円)



町が借りたお金の元金と利息

消防費 1億9241万4千円
(7,667円)



消防、水防費など

農林水産費 5億4478万2千円
(21,706円)



農林業、地籍調査、冷害対策など

民生費 4億9889万3千円
(19,878円)



身障者、老人福祉、生活保護など

諸支出費 1億0116万5千円
(4,031円)



土地や立木の取得費

教育費 16億5666万6千円
(66,008円)



学校の施設、社会教育、体育など

商工費 1億1200万1千円
(4,463円)



商工、観光、温泉など

衛生費 2億3377万4千円
(9,314円)



各種検診、ゴミ処理費など

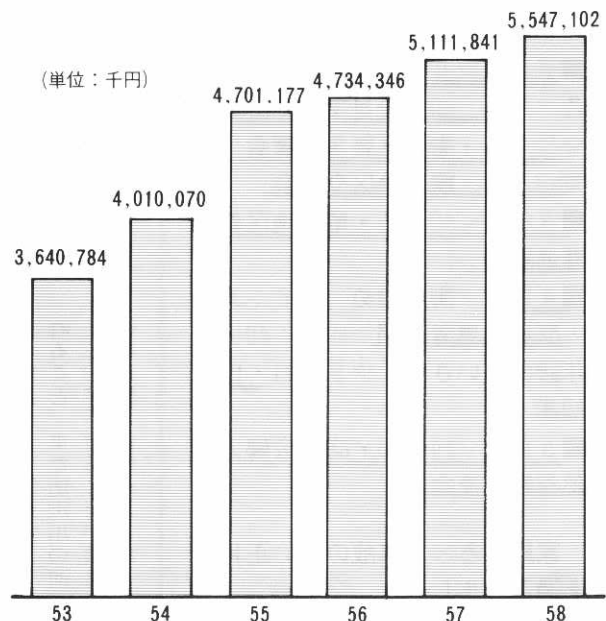
() 内は町民1人当たり

会計別決算総括表

(単位：千円)

会計区分	歳入総額	歳出総額	残 額
一般会計	5,780,178	5,547,102	233,076
国保会計	1,048,160	1,011,241	36,919
簡易水道	113,204	109,394	3,810
老人保健	894,432	860,082	34,350
と畜場	29,662	25,735	3,927
墓地公園	14,834	14,834	0
土地取得	2,105	2,105	0
宅地開発	11,934	0	11,934
綴子財産区	7,508	1,453	6,055
坊沢財産区	48,928	1,374	47,554
栄財産区	52,227	16,477	35,750
七日市財産区	36,780	3,140	33,640

一般会計決算額の推移(歳出)



安田火災記念財団から

福祉活動車が寄贈される

福祉の充実に役立てほしいと安田火災記念財団から、町社会福祉協議会に活動専用車が寄贈されました。

同財団では、社会福祉に助成してことしで八回目となるが、今回は全国二十三郡道府県三十八団体に助成金を贈ったもので秋田県では八十六団体のうちから選考委員会で二団体が決定。町社会福祉協議会は九十一万円の助成金で、身体障害者の移動巡回相談室を開設するため、専用車を購入したものです。

町では、身体障害者（児）は、ことしの三月末日現在で六百八



十人おり、視覚障害九十八人、

聴覚障害八十一人、声音障害二十四人、肢体不自由四百二十八人、内臓障害五十人（施設入所者を除く）となっております。

そのうち在宅重度の障害者は百九十四人もおり、取りまく環境は必ずしも恵まれてはいませ

目の不自由な方に

ガイドヘルパーを派遣します

北秋盲人会（大川義男会長）は、目の不自由な方たちが安心して外出できるようにと、十二月九日あけぼの町会館で、盲人ガイドヘルパーとの合同研修会を開きました。

盲人ガイドヘルパーは、目の不自由な方の要請にもとずいて派遣するもので、原則としてはひとり暮らしの方に限られているが、時には親族が不在の場合でも応じるようになります。

活用できる範囲は、役場など公共施設や医療機関に限られています。が、やむを得ない場合は買い物、結婚式などにも派遣されます。

ん。

町の中心地から遠く離れている、これらの方がたの健康を守り、生活や職業の更生を図るとともに、ボランティア活動が時間的な制約を解消するために、巡回専用車の威力が発揮されることとなります。

また、社会福祉協議会では「身体障害者のために各種の福祉制度が制定されているが、申請がないと恩恵に欲さない場合が多い。進んで保護や厚生に利用してほしい」と述べていました。

また、時間は四時間以内となつていますが、結婚式などで遠くへ出向くときは八時間まで認められます。

県内では秋田市に次ぐ盲人ガイドヘルパーが発足し、婦人ボランティアの嶺脇ルイさん（舟見町）、工藤カツさん（田中）佐藤繁子さん（新田中）の三人が登録して、盲人の方がたのガイドを引き受けることになりました。

ガイド料は県から支給され無料ですから、活用される方は二日前までに、町社会福祉協議会（六二一一一内線一七二）へ連絡してください。

坊沢地区『町長と語る会』

坊沢地区の「町長と語る会」は、十二月八日（土）

午後一時から坊沢公民館で行われました。

当日は、各町内の協力委員や各団体の役員など四十人余りが出席して、身近かな問題を出しあい話し合いが深められました。

今回出された要望は、増水により坊沢川の河床があるので改良を、横道沢尻の排水対策を、県営排水対策特別土地改良事業などでしたが、いずれも県営排水事業の促進にかかっているもので、相善下から前山間二千五百坪の大型排水の完成によ



り、準用河川も流量が調節されること、また坊沢川の河床を三〇センチ下げることが望ましいなど話し合われました。

正月の行事

- 元旦…▽0:30・ぱりじょこ
- ▽9:30・元旦マラソン
- ▽12:30・栄地区新年祝賀会
- ▽14:00・綴子地区交流会
- 3日…▽12:30・竜森地区新春清談会
- 4日…▽御用始め
- ▽8:30・交通指導隊査閲
- ▽8:40・年頭のあいさつ
- ▽9:15・出初式
- 5日…▽14:00・商工会婦人部新春交流会

家族そろって事故のない正月を過ごしましょう。

おしらせ



原爆被爆者二世
の無料健康診断

財団法人日本公衆衛生協会では、原爆被爆者二世の無料健康診断を実施します。

希望される方は次の医療機関の窓口で申し出てください。なお受診にあたっては、各医療機関の外来診察日や受付時間が異なりますので、希望する医療機関または、鷹巣保健所（電話二一六一五）へおたずねください。

▽実施医療機関Ⅱ大館市立総合病院、中通りリハビリテーション病院、秋田赤十字病院

▽対象者Ⅱ両親のどちらかが被爆者である者

▽実施期間Ⅱ昭和六十年一月十六日から一月三十一日まで。

NHK東北民謡
コンクール

NHKでは民謡コンクールの

出場者を募集しています。今回からは、コンクールを新人部門と大賞部門の二部門に分けて行います。

募集要領は次のとおりです。

▽新人部門Ⅱ十五歳以上二十五歳未満の方、大賞部門Ⅱ二十五歳以上の方が出場できます。

▽出場資格Ⅱ秋田県内に住んでいる方、民謡を歌って継続的に収入を得ている方は除きます。

▽申込方法Ⅱはがきに住所、氏名、年齢、職業、電話番号、歌う曲目、調子を書いて二月二日まで、秋田市山王一丁目一―二NHK秋田放送局「東北民謡コンクール」係へ

定期講座開設
のお知らせ

【陶芸教室】

▽期日Ⅱ第二、四土曜日 午後一時三〇分から

▽対象Ⅱ小学生から大人まで

▽定員Ⅱ二十五人で打ち切り。

トイレファンの訪問販売に注意

現在使用しているトイレファンの点検というこ
とで調査をし「不良だ」「焼けている」「漏電し
ている」「危険だ」などと、言葉たくみに話して
新しい機器を売るという苦情がふえています。見
積りを取るなど慎重に対応しましょう。

休日に営業する
ガソリンスタンドは

1月6日……安全石油
1月13日……河哲石油

▽場所Ⅱ公民館分館陶芸室
▽その他Ⅱ新しく本焼用の陶芸
ガマが設置されました。

【カメラ教室】

▽期日Ⅱ第一、三土曜日 午後一時三〇分から

▽対象Ⅱ小学生から大人まで

▽定員Ⅱ三〇名

▽場所Ⅱ公民館分館

▽講師Ⅱ宮野明義氏

※申込みは公民館（電話二一―一三〇または三八七二）へ。

郷土史年表

95

西 暦 年 号	事 項
一九六九 昭和四四	○六月二十八日、国道一〇五号線岩脇バイパス開通式
	○七月二十日、アメリカのアポロ十一号が月面着陸し、人類の第一歩をしめす
	○七月三十一日より八月十二日まで、第三次くるみ館遺跡発掘調査
	○八月十九日、大相撲鷹巣場所が米代川原で行なわれる。
	○八月二十日、藤株児童館落成
	○八月二十三日、脇神あけぼのグルーブが生活部門で農業日本一になる。
	○九月七日、鷹巣、有楽町で火事九むね、十三世帯焼出される。
	○九月二十五日、国鉄鷹巣―早口間複線運転開始
	○鷹巣駅前広場が拡幅舗装される。
	○十月一日、鷹巣駅に特急列車初停車（寝台特急日本海）
	○十月三日、秋北新聞社で四十五周年記念式典
	○十一月十五日、からむし岱土地改良区で圃場完成記念碑除幕式
	○十一月十六日、田中部落で墓地公園完成。秋の子供大会
	○十二月二十七日、第三二回衆議院議員選挙、石田博英、鈴木一、内藤良平、佐々木義武が当選
一九七〇 昭和四五	○二月十一日、東北宇宙研究所、ラムダ485号発射、初の人工衛星成功
	○二月十八日、役場新庁舎竣工式および祝賀会

町づくりの 課題を話し合う

公民館研究大会

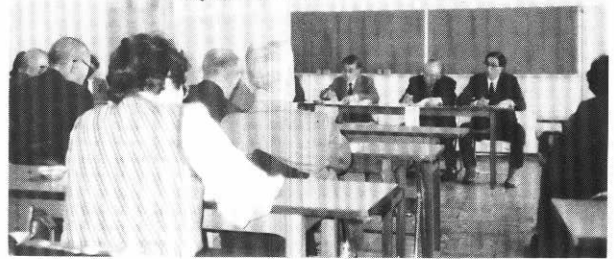
五分科会で課題討議

公民館の基本理念は「人間尊重の精神に立つて、生涯学習をすすめて、自治能力を向上させる」ことであります。第二回鷹巣町公民館活動研究大会は、十二月十六日関係者一二五人の参加で、「町の将来展望に立つて、その抱えている課題」について、熱心な話し合いをしました。

町内の地区公民館が、それぞれ、今年度の重点として課題学習をしてきたことを、話題として出し、意見交流をしました。

◆第一分科会 コミュニティスポーツと健康づくりⅡ 沢口、綴子が話題提供。勝敗のみのスポー

鷹巣町公民館活動研究大会



ツよりも地域の人の和づくりのためのスポーツ行事を大切にすること。健康は栄養と休養の調和をとることについて、その実践が紹介されました。

◆第二分科会 産業経済の振興Ⅱ 坊沢の収穫感謝祭、七日市の「町のふるさと会」としての生産物送りの状況が出され、今後ますますこの学習が重要視され指導力発揮のため農協の合併が必要であるとの結論。

◆第三分科会 生活の合理化Ⅱ 冠婚葬祭全般についての合理化案について、栄地区が現在すすめているものが提供され、結婚披露宴については記念品はやめた方がよい。お見舞いとそのお

返しに歯止めが必要。時間を守る運動をすすめるべきなど、出されました。

◆第四分科会 環境美化と高齢者の人材活用Ⅱ 七座地区の今泉が集落の各層ですすめてきた「花いっぱい運動」、中央公民館が今すすめている「高齢者人材活用」が話題提供、家庭菜園による自給自足の価値を分らせること。子供達に「物を大事にする」と「敬老の精神の大切なこと」を知らせること。

◆第五分科会 青少年教育Ⅱ 鷹巣地区小中高校親と教師の会（PTA地域活動）と、「一番星子供会」が、健全育成にとりくんでいる実践を紹介。全町で問題になっていることが出され、助言者の指導をおおぎました。

出川町長の講演

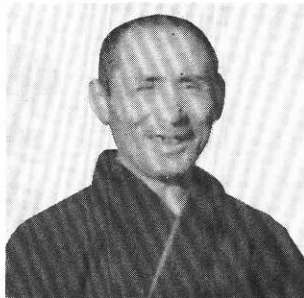
出川町長は、「町づくり」については、客観的に批判できない立場にあるので話にくいことだがと前おきながら

▽公民館は施設であると同時に機能体である。町民自らが学習し教養を高めること、公民（おやけのたみ）としての驕りが大切。▽今の日本人は飽食民族なので、国際的視野に立つての自戒が必要。▽その他、法律、福祉、産業経済について数字をあげ幅広く、一時間二十分にわたって述べられました。

ふるさと人物伝 80

持地重彦

一八七九—一九四八



大正から昭和の初期にかけて、鷹巣の名物男「ヨシカツ」と並んで「駅前の八木旅館のオヤジ」こと持地重彦がいる。重彦の生まれは、明治十二年十一月、南秋田郡寺内村、とあるが、いつ頃鷹巣に転居したかははっきりしない。父重幸（士族）が鷹巣警察署の剣術指南役をしたことがあるらしいから、それについてきたものと思う。

旅館は前からあった勝永旅館をゆずりうけ「米」に通ずるめでたい名「八木」と改称して営業する。

五尺に満たない小さな体でいつも和服に下駄ばきで、朝から晩まで忙しく騒ぎまわっている男であった。

彼は毎朝、欠かさずに駅のそうじをした。自分より長い竹ホウキをもつてくわえ煙草をしながら駅前広場を掃く姿を見ない日はなかった。

阿仁合線が通ったのは昭和九年のこと、それ以前の阿仁部へのパイプ役は彼であった。鷹巣駅に降りて阿仁方面にゆく人はまずここに寄って、泊るか、車（馬車、自動車）で行かなければならぬので初めての人はいろいろと彼の世話になった。

彼は義侠心が強く、困っている人にはよく面倒を見た。乞食や浮浪者の面倒から、身寄りのない人の世話をした。

反面、気に入らない人にはところかまわずくつてかかった。口も早い手も早く、喧嘩になると、小さい体だが、さつと下駄をぬいがかかってゆくので、恐れられた。

「お金はある人から取って無い人に与えるもの」というのが持論で恩恵をこうむった人も多い。昭和二十三年没。

（持地トキエ、佐藤良治氏談）
文責 長崎 久

おしらせ

※場所は、いずれも中央公民館
保健相談室です。

◇ 離乳食実習指導は、十七日
五十九年六月生まれとなつてい
ます。

◇ 受付時間は午前九時半から十
時まで。

◇ 乳児健康診査は、十七日
五十九年九月生まれとなつていま
す。

◇ 受付時間は、午後一時から一
時半まで、おいでの時は母子手
帳とパスポートを忘れずにお持
ちください。

一月の健康相談

一月の健康相談は、次のとお
りです。

成人健康相談は、九日と二十
三日です。

時間、午前九時から午後三
時まで、血圧測定のほか必要に
応じて尿検査も行います。

◇ 妊婦健康相談は、七日と二十
一日です。

時間、午前九時から午後三
時まで、妊婦検診、検尿、体重
測定などを行います。

毎週月曜日には母子手帳を交
付します。

は三十日、鷹巣地区の方は三十
一日です。

◇ 以前一回しか投与されなかつ
た場合は、必ず二回目の投与を
受けてください。

◇ 受付時間は、午後一時から午
後二時三十分まで、中央公民館
ホールで行います。

※禁忌と注意

生ワクチンに関する一般的な
禁忌である免疫産生機能に異常
ありと想定される場合は、投与
を行いません。その他、下痢患
者も治療してから投与します。
生ワクチン投与当日の入浴はさ
しつかえありません。母子手帳
を必ずお持ちください。

自衛官を募集

自衛隊では、二等陸海空士の
自衛官を募集しています。なお、
昭和六十年三月卒業の高校生も
併行して募集しています。

受験希望の方、詳細を知りた
い方は、自衛隊秋田地方連絡部
大館出張所（☎〇一八六―四二
―一三九八）へお問い合わせくだ
さい。

停電のおしらせ

一月の作業停電は、次の地区
です。

▽10日 湯の岱（午前九時か
ら正午）
▽14日 今泉（午前

九時から正午）
▽16日 大堤
一部（神社付近）（午前九時か
ら正午）

善意

▽日本民謡協会秋田鷹巣支部（
支部長・長崎福二）から結成
チャリティ発表会収益金の
一部として十万円

▽県北商友会（会長・菊地義雄）
から二万円

町社会福祉協議会へ寄付金が
ありました。

ご芳志に深く感謝いたします。

香典返し

このほど次のことから、香典
返しにと町社会福祉協議会へ寄
付金がありました。

ご芳志に深く感謝いたします。

▽前山 沢田善吉さんから亡母
サトさんの香典返し

▽摩当 松尾与市さんから亡母
サンさんの香典返し

▽材木町 成田鐵也さんから亡
父宇一郎さんの香典返し

▽前野 長岐照彦さんから亡母
アキエさんの香典返し

▽松葉町 相馬広さんから亡父
孝一郎さんの香典返し

▽岩谷 佐藤一吉さんから亡父
重蔵さんの香典返し

▽七日市本郷 木村晃一さんか
ら亡父英一さんの香典返し

慶弔だより

12月1日―12月15日

■誕生おめでとうございます

藤島 祐介（稔） 長男 新賀町

佐藤 紀代（速夫） 三女 伊勢町

佐藤 七恵（速夫） 四女 伊勢町

泉谷 和則（正司） 二男 大町

泉谷 亮輔（正司） 三男 大町

森岡 垂紀奈（進） 二女 南鷹巣

相馬 圭吾（齊） 長男 材木町

丹 貞寛（寛美） 長男 今泉

河田 誠治（和弘） 長男 元町

米山 央（栄八郎） 三男 花園町

武藤 知恵子（一郎） 長女 糠沢

■二人の前途を祝福いたします

佐藤 朗 坊上町

福島 周子 大館市

近藤 広美 湯車

小塚 恵美子 舟場

三沢 彰 仙台市

加藤 洋子 伊勢町

津谷 哲 緑ヶ丘

佐藤 恵美子 掛泥

畠山 公夫 南鷹巣

佐藤 友子 羽立

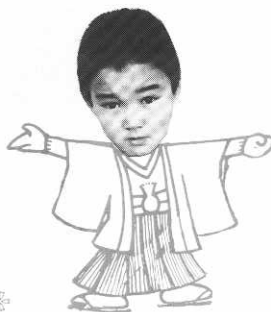
おくやみ申しあげます

相馬孝一郎（56歳）松葉町

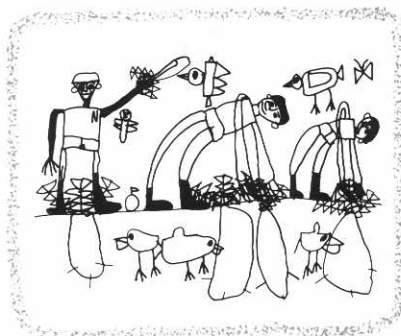
長岐金治郎（60歳）七日市

木村 英一（55歳）七日市

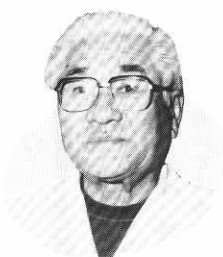
の広場



竜森保育園
みかみともひろくん(6歳)



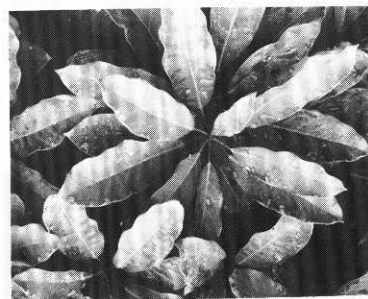
昭和四十六年全国にさがけて生涯教育の推進に取組んだ本県は、先進地として注目を浴びております。各市町村には行政レベルの指導者の外に生涯教育奨励員が置かれております。当町では十五人が委嘱されて、夫



奈良康一氏

これまで「生涯教育について」をテーマに、それぞれの方から意見を述べてもらいましたが、みなさんの意見や考えがいかされるようにというところから、町生涯教育奨励員代表者・奈良康一氏から助言していただきました。

々の持ち味を生かして活動しております。初期には特技を持っていた、それで人を指導出来る者といった考えが強かったのですが、かなり心の負担になりましたが、近頃では生涯にわたって学習しようとする意欲を起させるための世話活動の出来る者と考えが変わってきたので、幾分心が軽くなった気がしております。また、生涯教育は一人一人が生涯にわたって学習すると共に、生き甲斐を目ざして学び合うようなことと解しております。物が豊富で



エゾユズリハ

トウダイグサ科

林地に生える常緑低木。多雪地の日本海側や北海道に多い。葉の柄に赤味があるので、アオキバ(葉)とすぐ区別出来る。正月に門松とともに立てる風習が残っている。

(南小学校 畠山 益穂先生)

ふるさとのみなさんへ

ふるさとの良さが感ずる町

東京都町田市 藤田 久雄 (43)

私は七座中学校から鳳鳴高校を昭和三十五年に卒業し、ふるさとを離れてから二十数年になりますが、何年過ぎてても昨今の様に想い浮かべては懐しい鷹巣町であり、私の誇れる町でもあります。

私が通学した七座小、中学校は、絵にでもなるような環境に恵まれており、四季折々の景色を想い浮かべては望郷の念を抱きます。今泉と前山の子供達が通学した七座小・

中学校が不幸にして焼失したのは、とても残念に思っております。

春はきみまち坂に遠足、天神様のお祭りは午後から学校が休みになり、喜んで出かけた記憶があります。夏は学校の下、米代川で水泳ぎ、秋は冬仕度のまき運び、冬はスキーや、そり乗りなど、多感な少年時代を情緒豊かに過ごす事が出来ました。



現在私は西川商事という会社勤務に就いており、主に贈答品関係を担当しております。東京で生活していると、なかなかふるさとの良さが、しみじみ感じる次第です。今日では、道路や住宅など、見がえるようになりましたが、昔の良さを忘れず、自然を大切に住み良い鷹巣町であってほしいと願っております。▽藤田さんは前山出身の方です。



竜森保育園
かしわぎこずえちゃん(6歳)



みんな



も心が貧しいと言われる現代社会では、物の文化より心の文化がより必要とされ、生涯教育の面で取り組む問題が多くあります。世間には色々の趣味を持ち、一人で或は数人で学習している人々があると思いますが、学習する仲間の交流を計りたい考えの方、或は何をどのように学習したらよいかなど公民館の「ブルーの窓口」や奨励員に相談していただければ出来るだけお手伝いさせていただきます。

これまで種々の集りを見ましても婦人層が多く、精神的にも肉体的にも大切な時期にある壮年男子の学習会の如きものが低調であることが指摘されています。一口に生涯教育と申ししましても、人それぞれの立場で自ら進んで取り組むべきもので他から押しつけられて学習すべきものでないと思われれます。



国旗

元日の国旗はいかに日本のお正月という雰囲気漂っているもの。

国旗の日の丸の歴史は非常に古く、豊臣秀吉が御朱印船に日の丸を掲げさせたと伝えられておりますが、当時は単なる船印として考えられたと思われれます。

今日取り組むべき色々の問題がありますが、特に世界に例を見ない程の速さで高齢化社会の仲間入りをした日本では物心両面の老人対策が重要と思います。今後は高齢者であっても体力相当の社会奉仕を考え更には高収入を目的としない生産に従事するなどして若い層に協力することが必要になり、そうする事自体が生き甲斐にも通ずるものと考えられます。とかく高齢者は過去の経験を唯一無二のものとして正当化し若い人に対処する傾向があるので敬遠され勝ちであるが、私自身高齢者の一人として、新しい時代の中に在って生き甲斐を見出すために老人クラブの方々と話し合いたいものです。生きることは唯通り過ぎることなく一人一人が創造発見することに学習の基本があるということでもあります。

しかし幕末になって諸外国と交通が開けはじめたころ、島津家の船の旗印として新造船の白帆に朱の日の丸を書いたことに端を発し、その後明治三年一月二十七日太政官布告第五十七号の商船規則で、正式に日本国旗として制定されたものです。

たて方は入り口の向かって左側、やや左に突き出るように、日の出から日没まで、夜は揚げないのがマナーです。

写真は、昭和46年に廃校となった坊山小学校。同校は明治17年に湯の岱巡回授業所として開設。その後昭和30年に坊山小学校と改称独立。39年には本県で初のシンクロファックス導入学習研究指定校となったが、生徒数の減少により87年の歴史に終止符が打たれた。



たかのすの昔



写真：坊沢方面から新春の町内と摩当山を望む